

秋田市・明德小 給食にプラスチック片混入 健康被害確認されず

秋田市教育委員会は18日、明德小学校(木谷光男校長、157人)で同日提供された給食にプラスチック片が混入していたと発表した。見つけた児童は飲み込んでおらず、健康被害は確認されていない。

市教委によると、午後0時半ごろ、4年生の男子児童がマーボー豆腐を食べた際に違和感を覚えて口から出したところ、縦1㍓、横0.5㍓の楕円に近いプラスチック片が発見された。ほかの学級では見つからなかった。明德小は全児童の保護者にメールを送り、事案の発生を伝えた。

市教委が校内の調理場を調べたところ、調理に使うフードプロセッサーのふたが欠けているのを確認。児童が見つけたプラスチック片と形状が一致したため、混入したのはふたの一部だと判断した。調理を担当する再任用職員の2人は、ふたが欠けているのに気付かなかったという。

市教委は職員2人に対し、調理機器の使用前後の点検を徹底するよう指示。きょう19日には、給食センターを含む市内全ての給食調理施設にも点検の徹底を呼びかける。

市教委学事課の中安浩二課長は「児童、保護者の皆さんを不安にさせ申し訳ない。点検を徹底し、再発防止に努める」と話した。

明德小ではきょう19日、通常通り給食を提供する。

(佐藤優将)

(令和7年11月19日(水)秋田魁新聞から一部抜粋)